

## 第6回足立区基本構想審議会会議録

**日 時** 平成 28 年 2 月 4 日（木曜日） 午前 10 時 00 分から 12 時 00 分

**場 所** 足立区役所中央館 8 階特別会議室

**出席者** 足立区基本構想審議会委員（35 名）

田中充副会長、村上祐介委員、石阪督規委員、田中隆一委員、有馬康二委員、足立義夫委員、須藤秀明委員、乾雅榮委員、吉田修一委員、小久保兼保委員、野辺陽子委員、小林雅行委員、田中忠穂委員、近藤勝委員、鈴木健文委員、石橋穠治委員、大塚和夫委員、北川千恵子委員、志自岐亜都子委員、長谷川浩一委員、早木美恵委員、益留有紀委員、鴨下稔委員、吉岡茂委員、馬場信男委員、ただ太郎委員、たがた直昭委員、長井まさのり委員、岡安たかし委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員、鈴木けんいち委員、おぐら修平委員、石川義夫委員、定野司委員

事務局 政策経営部長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、  
基本構想担当係長、（株）地域計画連合

**議題等** 1 新たな足立区基本構想について（答申）

2 事務連絡

（1）次回の予定

**資 料** 【資料 21】 新たな足立区基本構想について（答申）

【資料 22】 足立区基本構想答申案 主な修正等一覧

## 1 新たな足立区基本構想について（答申）

基本構想担当課長：ただいまより第6回足立区基本構想審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。いよいよ次回、2月25日が区長への答申となり、それに向けてご審議をいただきますのは本日が最終日となります。よろしくお願いいたします。なお、牛山会長は体調が優れずご欠席です。田中副会長に進行をお願いしたいと思います。

田中副会長：おはようございます。それではこれから第6回足立区基本構想審議会を始めさせていただきます。これまで委員から大変熱心にご議論をいただきました。12月の審議会でも多様なご意見をいただきました。その中で区の現状と課題、解決策などといった具体的な議論をいただいております。一方で、基本構想というのはこれからのまちづくりの将来像、あるいは方向性を示すものであり、皆さんの意見をできるだけ反映しながらまとめていきたいと考えております。区民にも理解されやすいような多くの内容を包含し、分かりやすい表現でまとめていきたいと思っております。可能であれば答申にたく、区長には答申を可能な限り尊重していただき、基本構想の策定に向けてあたっていただきたいと考えております。また、今後区が、基本構想の後に具体的な施策を盛り込んで、優先順位を付けていく基本計画を策定していく上で、委員の皆さんがご審議された内容もそこに反映をしていくという形で整理をさせていただきたいと思っております。

さて、一つ大きなこととして、前回ご議論をいただいた協創という言葉でございます。将来像の柱の中の協創については、多様な区民がいるからこそそれを認めてつながりを持って力を発揮していくということもあろうかと思っております。区の施策が今後も継続されていくことは当然ですが、さらに安心して区民が平和に暮らしていけるという画期的な仕組みになっていくのではないかと期待を持っているところでございます。

少し前置きが長くなりましたが、以上のようなことを前回の審議を受けて私なりに感じたところで受け止めさせていただきました。それでは資料の確認からお願いします。

基本構想担当課長：それでは事務局からお手元の資料確認をさせていただきます。まずは本日の次第です。次に資料21、新たな足立区基本構想について（答申）です。今回は資料編である各専門部会の検討結果や、区民あだちサロン・中高生ワークショップにおける意見一覧なども添付してございます。続きまし

て資料２２、足立区基本構想答申案 主な修正等一覧です。こちらは事前送付したものに関連数字などの誤植があり、大変申し訳ありませんでした。お手元のものは訂正後となっております。本日の配付は以上３点ですが、前回審議会の会議録については事前送付したもので配付に代えさせていただきます。

田中副会長：最初に皆さんにお諮りし、意見交換をさせていただきたいと思いますのは、先ほど申しました協創という言葉でございます。今回資料の中で将来像の２案に協創という言葉をもとめさせていただきました。協創という言葉と、将来像のあり方について議論をしていただいた後、全体的な修正内容を確認させていただきたいと思います。

それでは、まず協創の文字についての整理について、事務局からお願いします。

基本構想担当課長：資料二つをご覧いただきながらお願いしたいと思います。最初に資料２１の基本構想答申案についてですが、１４ページ、１５ページをお開きください。併せて資料２２の３ページをお開きください。まず資料２２について、中央の列がいただいたご意見の要旨です。それぞれに記号が付いてありますが、◎が１２月２４日の審議会内での意見、☆が審議会後にいただいた追加意見、◆が事務局から修正等で提案させていただいたものとなります。なお、意見の順番は発言順ではなく、概ね答申に出てくる順番とさせていただいておりますのでご了承ください。さらに、一番右側の列が修正内容となります。

３ページの３１から３８番が協創の協の字に関する部分です。中程の意見についてご紹介します。「協創」はビジネス関連に使われているので気になる、「共」の方が優しくて分かりやすい、「共」は役割を明確にしないもの、「協」は互いの役割を全うしながら一緒にやっていくもの。あるいは、行政によって使い分けがある。「共」は使い古されていて、「協」はオリジナリティという感じでは良い、我々がこの延長でやるなら「協」が良い、コラボレーションとクリエーションということでは「協創」で良い、「協働から共創」とした場合、文字の違いに理解が得られにくくなる。「協創」が良い、「協」と「共」の定義を確認したい。

こちらに対し、本日の資料は協力の協でご提示してあります。理由としては、「協」に込められる意味として、おのこのの思いを重視している、主体的に考える、当事者として活動しながら力を出す（＝役割を全う）ことを考えています。また最近では他の自治体でも使われ始めており、今後例えば協働と協創、両方とも使う際に協力の協で違和感がなく、妥当と考えます。将来像２案のご

説明もさせていただいてよろしいでしょうか。

副会長 そうですね。ではそのようにお願いします。

基本構想担当課長：資料２２の４ページをご覧ください。４６番の項目で将来像についてご意見がございました。進化し続けるまちでは、「ハード」のイメージが強くなる。「人」を含意させるため「～ひと・まち 足立」としてはどうかという、将来像そのものに対するご意見がございました。そこで、資料２１の１５ページにございます案１、案２で「ひと」を加えたものとなないもので２案併記させていただきました。ただいまはこの共と協力の協のどちらを使うか、また将来像の２案についてご検討いただきたいと思います。

田中副会長：資料２１の１５ページに目標とする足立区の将来像が基本的なコンセプトになるわけですが、このような形で整理させていただくということです。そこでこの箇所について二つの論点が出てきています。協創力で作るという、協創力の「協」をどのような文字で表すかについてです。この文字が読み手にある種のイメージを与えますので、文字をどのように選択するかというのは大変重要な議論だろうと思います。協力、協働の協、あるいは共にするという共のいずれかでご意見が出ておりました。こちらについて皆さんからご意見をいただきたいということでございます。

二つ目の論点として、活力にあふれ進化し続けるまち足立とまとめているのですが、活力にあふれ進化し続けるまちというのはハード系に寄りはないかということで、第２案として活力にあふれ進化し続けるひと・まち足立とし、「ひと」を入れてはどうかという案が出てきています。

さて、二つの論点についてそれぞれ皆さんと意見交換をさせていただき、整理をしていきたいということでございます。いかがでしょうか。

馬場委員：今ご説明をいただいた二つの論点に加えて、疑問があるのですが、「協創」の字は、私は現在の案でよいと思います。前回の協働から協創への流れで、区民にしっかり分かりやすく伝えるには同じ字がよいと思っています。

ただ、今回はその２文字の後に「力」が入っています。「力」を入れる意味も明確に説明をいただいた方が区民に分かりやすいと思います。「協創でつくる」と、「協創力でつくる」の違いについても明確にしていただければと思います。

田中副会長：ご質問について、事務局からお答えいただけますか。

基本構想担当課長：「協創」につきまして、資料２１の１７ページに掲載の図をご覧くださいなのですが、多様性を認めつつ、その中でもつながりを持っていざというときには力を発揮していただき、またつながりをつくり上げていくという状態ということで考えております。活力を生み進化していく、そういった根源となる、本文中ではエンジンなどと書いていますが、協創の状態とそれをつくり上げていく力といった形で考えております。

田中副会長：力を付けることでいろいろなイメージが生まれ、そこに力強さがあったり、あるいはそのような状態をつくり出すパワーやポテンシャルを理念にするといった趣旨が込められていると私は理解しています。他にいかがでしょうか。

長井委員：前回の話し合いで出た協の字について、資料にも記載の通り、互いの役割を全うしながら一緒にやっていくものという意味合いがあるということで、協働から協創への流れもあると思いますので、「協」がよいと私は思います。

田中副会長：他にはいかがでしょうか。

石橋委員：協創と協創力の意味の明確化という意味では、資料２１の１４ページで下から５行目に協創と協創力との違いが書いてあるため、私はこちらを読んだ範囲で分かる気がしましたのでこれでよいと思いました。

田中副会長：１４ページの下から５行目から３行ほど、協創、あるいは協創力という言葉の意味を説明しており、こちらの内容で了解できるというご意見かと思えます。他にいかがでしょうか。

ぬかが委員：答申を事前に資料としていただいたときに、多くの人に見ていただいて意見を聞きました。例えば右肩上がりの高度成長の時代ではない中で、「協創力でつくる活力にあふれ 進化し続けるひと・まち 足立」というのは、足立の実情と離れていて実感が湧かないという意見が一番多くありました。四つの専門部会でやってきたよい議論の中に「協創力」という言葉はなかったように記憶しています。やっとな協働という言葉が定着をしてきましたが、一般的に協働といったときに、このような字であると分からない方も多い中で、こちらの表現だと足立の基本構想・将来像といえないのではないかと考えております。

もちろんこの議論の中で、こちらで進めるという答申になれば、そのような

ことだとは思いますが、異論があったということはぜひお願いいたします。ここまで来て、では全く新しいものにとというのは現実的に難しい中で、さまざまな意見があったということもぜひ答申等に付記をしていただきたいと思います。

田中副会長：ありがとうございます。こちらの新しいキーワードである「協創」あるいは「協創力」、あるいは「進化し続けるまち」が実感と少し離れる可能性があるのではないかとのご指摘であったかと思います。そうはいつでもおおよその方向は既にあるので、こうした方向で受け止めるとしても、丁寧に説明、情報発信をし、真意や意味合いを区民に届けることが必要ではないかというご指摘であったかと思います。

吉岡委員：今、ご意見をいただきましたが、実際のところ足立区は、かつてと比べて大学がたくさん出来ましたし、日舎ライナー、つくばエクスプレスなどインフラ整備も進む中で、30年後の足立区を見据えたものとして議論してきたことですから、内容的にも何ら問題はないと思います。

田中副会長：内容的にも将来を考えるのであれば、多少前を向いた視点も必要だというご意見かと思います。

岡安委員：協創力、協創というのが分科会では出てこなかった言葉ですが、協働という言葉も、私が議員になる前に民間の企業で営業職だった頃、まず使ったことも聞いたこともありませんでした。官の世界では当たり前でも、民間ではその当時はあまり耳になじまなかった言葉ですが、意味合いを聞くと、なるほど、そのような意味では大切な言葉であると理解しました。今回も協創というのは、今吉岡委員が言われたような30年後を見据えた中で、官から発信して民間に広げるほどの力強い言葉として定着する必要があるのではないかと思います。意味合いとして、14ページを読むと、協創で生み出していく力でまちやひとを活気づけていくというのは、よい意味合いであると思います。最初は何でも違和感はあると思いますが、これは定着させていくべきだと思うし、足立区の基本構想としてそんなに違和感がある言葉ではないと思います。

先ほど来議論がある「力」というのは、協創で生み出される力と捉えれば、協創力というのも分かります。また、進化し続けるという言葉が入ると、進化にひとというのは行きすぎているかなとも思います。ただ、案1は、まちしか書いていませんが、そこにまちをかたちづくるのはひとであり、活力にあふれ、進化もひとがいないとできないので、こちらにはもうひとが含まれているとい

う意味では案１もよいかと思います。あえて案２のようにきちんと文字で出すと考えられることから、甲乙付けがたいと思います。

いずれにしても、基本構想としてどちらかが決定された折には、まずは区民の皆さんに、協創とはどのようなものかを、図などを用いて、しっかり周知し、理解していただく必要があると思います。その意味では、先ほど委員が言われた、なじまないという異論のある人もいるわけですから、そこはもしこれが打ち出された折には、すばらしい意味のあるこの言葉についてしっかり周知していただいて基本構想を打ち出してもらいたいと思います。

田中副会長：ありがとうございます。協創という言葉のまだなじみがない、あるいはまだ少し違和感があるかもしれないということを前提にするということだと思います。協働という言葉がそうであったように、少しずつ社会に、あるいは区民の間に浸透していくことが大事であって、この後の私たちの足立区の将来像のあり方を協創という言葉でイメージできるようなきちんとした周知、PRも重要だというご指摘かと思います。

二つ目は、案１、案２の進化し続けるまちにするか、あるいは進化し続けるひと・まち足立とするかについて、ハードなまちとソフトな人が相まっていくとのことでした。こちらは両方ともあり得るというのが今のご意見だったかと思います。他にいかがでしょうか。

北川委員：私はこの話が出たときから、定義付けがしてあれば、事務局にお任せでよいと思っていたので、今回定義が書かれているのでこれはよいと思います。現状と違うというお話もありましたが、あくまでも目標なので、少し高いところに置いて、それで皆さんで頑張っていきましょうという感じでよろしいのではないかと思います。

「ひと」を入れるかどうかという点ですが、行政側だけではなく、区民側からも働きかけて、一緒に一生懸命やっていくという点では、ひとが入っていた方がよいのではないかと思います。

田中副会長：定義がきちんと書かれていることが重要であることと、少し高い目標ではあるが、これからのあり方、区のあり方、区民のあり方を考える上で、協創という言葉はよいのではないかということでした。それから、将来のあり方については、案２の「ひと」が入るということが、やはり区民をイメージさせるということで、そちらの方がよいのではないかというご意見だったかと思います。他にいかがでしょうか。

ぬかが委員：先ほど反論のようなご意見をいただいたのですが、ここで何か議論をするつもりは全くないということをまず申し上げておきたいと思います。その上で、なぜ協創という言葉なのかということです。ただ新しいから違和感があるのかなということを考えたときに、協創という言葉の解説も含めてですが、全体としても憲法等で最も大事にされている個人の尊厳というものがございいます。分科会でも議論されてきたところだと思うのですが、個人の尊厳を大事にする視点が見えないという意見もありました。そのため違和感があるのだと思っています。

その上で、この解説を見ますと、行政の役割というのも、コーディネーター的な役割であるという旨が解説で書かれています。行政は本当に単なるコーディネーターなのでしょうか。地方自治法に位置付けられた本来果たすべき役割として、住民の福祉、公共の福祉の増進というところが行政の役割であって、そのニュアンスがあまりにも薄められる可能性があるのではないかと思います。このような背景があり、違和感があります。結論は先ほど申し上げたように、これで進めるということであればそれでよいのですが、ただ、反対意見があったという部分は明記していただきたいという意味です。

田中副会長：ぬかが委員がおっしゃったことは、区民レベルでいえば、協創はなじみがない言葉ですし、初めて聞くと反応があるのは極めて自然なことだと思います。ただ、今まで委員からご発言がありましたが、30年後を考えて、新しい区のあり方、今までの基盤を築きながら、新しく区の将来を考えていこうというときに、新しいキーワードもあってよいと思います。そのような意味では、他の委員からも高い目標があってもよいのではないかという補足的な意見が出たかと思います。そのため、ぬかが委員がおっしゃることは、区民の率直な反応ですが、だからこそ委員がおっしゃったように、きちんとした理解を求めて周知をしていく努力が必要だという意見だと思います。こちらはぜひとも区の中にお届けしたいと思いますし、場合によっては答申の際にもその点に留意した表現をどこかに盛り込むことも考えられると思います。

それから、行政がコーディネーター役である部分については14ページにあります。行政はコーディネーターだけではなく、主体的な取り組みも当然ながら必要だと思います。協創をしっかりと機能させるために行政は方向性を示して主体的に取り組むことがまず第一だと思います。行政の役割、責任というのをきちんと果たした上で、互いの役割をつないでいくというコーディネーターという両面が必要だと思います。ここはぜひともきちんと行政に受け止めていただきたいと思います。



長谷川委員：先ほど議長からも話がありましたが、案１にしても案２にしても主語が明確でないので議論になったのではないかと思います。協創で生み出される力と言われましたが、主語が区民だったり行政だったり、我々みんなが主語であるならば、協創力と活力で同じ言葉が二重に使われている感じがします。協創で生み出す力で、あるいは協創で生み出す活力にあふれるという言葉についてもう少し明確にさせていただいたほうがよろしいかと思います。そうすると、主語が我々だという意味で言えば、「ひと」が入っている方がよいという感じがします。私としては主語を明確にした上で、案２とするのがふさわしいと感じています。

田中副会長：全体として案２の方がよろしいのではないかとということと、主語を明確にしてはどうかというご指摘かと思います。足立区の将来像は、区民、行政、事業者、あるいはさまざまな団体も含めてそこに目指していくという将来のあり方を提示したものと考えられます。その点では、協創力でつくる、あるいは活力にあふれて進化し続けるまちを目指す、ひとを目指すことはみんなの力で目指すのだらうと思います。前提として主語は区民であったり、事業者、団体、行政などがここに関わっていくという理解であります。委員からは主語を明確にしてはどうかというご意見であったかと思います。

野辺委員：先ほどよりずっと思っていたのですが、協創力というと、自分以外の誰かが力を出している感じがします。協創といえば、その中の１人として私も加わっているのではないかという意識がありますし、それは主語として私たち、あるいはみんなでというのが入れば分かりやすいですが、協創力というと自分以外の方がやるもののように考えてしまいます。そこは協創でつくるというご意見と同じで、すると、自分たちもという気持ちになるのではないのでしょうか。

田中副会長：先ほど長谷川委員からのご指摘で、協創力と活力というのがイメージの上で重複感があるということがあったかと思います。野辺委員からも続いてご指摘を受けたように思います。この点は事務局でどのようにお考えなのか、整理されたものを示していただけますか。

基本構想担当課長：将来像について、いろいろご意見をありがとうございます。まだ事務局の印象では、案２で進めるのかなというところですが、協創力の「力」が不要ではないかという点について、もう少しご議論をいただいてもかまいませんでしょうか。その上で、会長との調整の結果を受け止めたいと思います。

田中副会長：お二人の委員から協創力の「力」について、活力という言葉と重複感があるというご意見がありました。あるいは、協創力という言葉そのものが定義されており、力強さ、あるいは前進していく前進力もイメージされているので、これでよいかという印象もございます。他の委員からもうかがいましょうか。

吉田委員：資料２１の１５ページにある将来像ですが、案２がよいと思います。案１はまちそのものを、ひとも含めて構成していくわけですが、そこに「ひと」も入ることによって少し柔らかい印象を受けました。

また、協創力の力を除いた方がよいかという意見に対し、目的として掲げた一つのイメージとして、みんなで力を合わせようという意味では、力が入ってもおかしくないと思います。

田中副会長：吉田委員からは案２がよいのではないかというご意見と思います。また協創力については、力が入ってもイメージとしてはつながるように思うというご意見をいただきました。個人的にはどちらかというと案２の方がよいという印象を持っています。ただ、誠に些細なことですが、進化し続けるひと・まちとありますが、「進化し続ける」の後に、半角スペース空いているとよろしいかと思います。つまり、「協創力でつくる活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」とつながった方がよいように思いました。他の委員はいかがでしょう。

馬場委員：私自身は案２の方が分かりやすいという気がします。その理由の一つは、「ひと」が入るか入らないかなのですが、進化し続けるまち足立ということになりますと、やはり進化を続けるために動くのは、行政が活発に働いて進化し続けるのでしょうか。もしくは一部の人が頑張って進化を続けると捉える可能性もあります。すると、他人任せと取られる可能性も出てくるのではないかと思います。案２の進化し続けるひと・まち足立であれば、「ひと」が入ることによって、この将来像を読んだ区民も、我々区民一人ひとりも進化し続けたいと、活力にあふれる足立区にならないというイメージとして捉えてもらえる気がいたします。

それと、協創力でつくるという部分について、協創という単語自体が造語で、造語は辞書に出ていない、分からない人が多い上、力が付くとさらに分からず、疑問点が膨らんでしまう気がします。力を入れないという議論になるのであれば、分からない度合いが少ないように思えます。協創力でつくるという一文を

除いて理解を進めざるを得ないと思います。協創という概念や意味が分からないといけません。そうした場合に、説明としては案2の方が分かりやすいのかなと思います。

田中副会長：結論から言えば案2でよいのではないかとということと、力を入れると、造語、ないし新しいキーワードに力まで付いて意味合いが伝わりにくくなるのではないかとということから、取った方がよいというご発言だったかと思います。

おぐら委員：私も先ほど来の議論と全く同じような方向です。まず、案2の意見が多いのですが、私もまちだけだとハード面のみのイメージを持たれる印象がぬぐえません。区民一人ひとりのところにもしっかり目を向けるという意味では、案2の中で「ひと」が入った方がよいと思います。

また、「協創力でつくる」で、先ほども協創で生み出す力など、いろいろな案をいただきましたが、例えば協創で生み出す活力とか、協創による活力とか、協創力という漢字が三つ入ると見たときにイメージがわからないのですが、協創の2文字にすることによって、なるほど、協力し合って何か新しいものを創っていくのかなとなり、言葉を知らなくてもイメージが伝わりやすいと思います。そのような言葉に変えていくことでより伝わりやすく、理念を共有できるのではないかと思います。

田中副会長：おぐら委員から、案2でよいということと、協創力でつくるの「力」はない方がよいのではないかとのご意見だったと思います。

志自岐委員：同じ書体で全て書いているので、何が何にかかるか分かりづらい部分があります。協創力でつくるは、ひと・まちではなく、活力や進化にかかる形容詞だと思いますが、ずらずらと書かれると、協創力がひと・まちまでかかるのかどうか分かりなくなります。それは言葉だけの問題ではなく、表現の問題になると思います。協創力が何にかかるのかというのが分かりやすいようなスタイルや形を考えるとよろしいかと思います。

田中副会長：委員のご発言は、協創力でつくるというワードがどこにかかるかで分かりやすさが変わるのではないかとということかと思います。私も二つの意味合いがあるだろうと理解しました。協創力でつくるというのは、活力にあふれ進化し続けるに主にかかるとということと、ひと・まち足立の両方に、あるいはむしろ後ろの方にかかるという二つの読み方があるということでございます。

このあたりの意味が、事務局の整理の中で込められているとは思いますが、事務局としてはご指摘の点について、どのように考えますか。

基本構想担当課長：どこにかかるといえるところでは、「協創力でつくる」が、第一義的に活力にあふれ進化し続けるにかかり、そういった状態のひと・まち足立全体までかかっていくものと考えております。

石橋委員：15ページを見ると確かにそのような感じを受けますが、17ページの図の方で考えると、協創力が真ん中にあります。この図を見たときに、全部にかかるといえるのはすぐに分かります。全体のコーディネーションとの関係もあるかも分かりませんが、協創力を15ページの中央に持っていけば、ニュアンスが違ってくる気がします。

田中副会長：委員のご指摘は、17ページの図の上の方ですね。レイアウトがまた違っており、協創力でつくるが中央にあります。むしろこちらに表記すれば、全体にかかるといえる意味合いが伝わるので、このような表記の方が分かりやすいのではないかとご意見だと思います。志自岐委員からも、レイアウト、あるいは文字の大きさや色合いなどで意味合いやメッセージが違おうだろうというご指摘だったと思います。他にいかがでしょうか。

鈴木けんいち委員：先ほどから議論のある協創力についてですが、私も分からないというのと違和感があります。分からないというのは初めての言葉だからということはあると思うのですが、違和感というのはやはり独特の意味が含まれているのだと思います。その独特の言葉のもつ意味が何なのかというのが分からないのだと思います。説明をお聞きすると、結論として、区民が共同の力でよいまちにしていこう、あるいはよい足立区にしていこうということだと思います。それはまさに区民の共同の力のことを言いたいのだと思います。だとすると、言葉としてそのように整理すれば分かりやすいし、理解もしやすいと思います。

共同の力というのは、まさにともに同じです。共同だとすると、皆対等で、各人一人ひとりも、事業者と個人も対等であり、力を合わせることになります。対等性がある上、各人の主体性が明確であるため、違和感も取り除けるし、分かりやすくなると思います。その上で、進化について、人間が進化するというのは進化論ではよいのですが、進化論の構想ではないので、にぎわいとか前進といった他の言葉があればよいのですが、対案がないため、さらにより言葉があるとよろしいかと思います。

須藤委員：14ページの定義を見ると、協創力という言葉がかかるのは活力と進化だと思います。そうすると、ひと・まちは協創しないのかということにもなってきます。ただ、行政サイドの考え方とすれば、例えば医師会で検診事業をやっていますが、それは半分依託で、行政と共にやっている事業であります。運営は医師会がやるということになると、協創力というのはその最初の一步だと考えますと、活力や進化にかかるのではないかと思います。例えばひとは関係ないのかということになりますが、現在NPOやいろいろな団体が出てきておりますので、そういった団体との協創力もあると考えます。そのように定義を丁寧に説明していただければ、案2でよろしいのではないかと私は考えます。

早木委員：私も案2でよいと思います。協創力や協創の定義について、他の委員が言われた通り、案1、案2とも活力にあふれ進化し続けるまちとあります。活力にあふれというところが言いたいために、協創力が来ているような印象があります。また、活力と進化を定義していますが、活力のところを見ると、一人ひとりの活力、まちの活力、つながりや新しい動きから生まれる活力とありますが、一人ひとりの力、まちの力がつながり、新しいチャレンジから生まれる力ではいけないのでしょうか。協創力、活力、進化の説明が必要になってくるかと思います。力を合わせるという意味で協創力であるため、17ページの図でも活力の説明を省き、単純な力ということにして、いろいろな力が合わさって向上していくという形にしてはどうかと思いました。

田中副会長：このあたりは難しいですが。

近藤委員：この解釈は人によってさまざまだと思います。私としてはもう少しすっきりと、協創・活力で進化を続けるひと・まち足立とした方がよいと思います。

早木委員：活力というのは省いた方がよいと思います。協創力でつくる進化し続けるひと・まち足立とすればすっきりしてよいと思います。

田中副会長：協創力、活力、進化し続けるの三つの並びが文言の整理が必要ではないかということがお二人から出たかと思います。

鴨下委員：個人的には案2の方がすっきりしてよいと思うと同時に、皆さんからの意見を承っていますと、協創力というのは区民から見ればオール足立、行

政とか商売の方々等々オール区民の力をいただいて、活力あふれるようにしていくということならば、協創を説明がないままご理解いただきにくいと思います。そうであるならば、協創でつくるということで「力」を取って、活力あふれ進化を続けるひと・まち足立の方が分かりやすいと思います。そして、協創が何であるかを区民により浸透していく方法もあると思います。

吉岡委員：私も基本的には案２がよいと思っています。それと、基本的な区の方方向性について、例えば協創力の力を入れるか入れないかという議論よりも、区民に向けて説明できる材料があれば、いくつかの受け止め方があってもよいのではないかと思います。この言葉から区民が何をイメージしてもよいのではないかと私は考えます。一つの考え方に固執して、このような理解なのだということではなく、民主主義の国なので、これを見た人がいろいろと感じる中で、区の方針として理解を共有するものはどの部分であるかを議論した方がよろしい気がします。

田中副会長：あまりイメージや意味合いを固定的せずに、受け取る方がそれぞれ自由にイメージをふくらませていただくというやり方でもよいのではないかとこのご意見だったかと思います。

乾委員：皆さんのご意見を聞けば聞くほど、頭が混乱して分からなくなってしまうのですが、直感的な感じ方で、協創でつくる活力にあふれ進化し続けるひと・まち足立であると考えます。

小林委員：協創という言葉はつくるということとかぶるところがあると思います。また、協創というのがすべてのベースなのではないでしょうか。これをもって活力にあふれ進化し続けるまちという将来像ではないかと思います。協創力でつくるということとかぶる部分があるので、協創によりとか、協創を基に、あるいは協創でだけでもよいような気がします。

田中副会長：つくるというのが協創という言葉と重なっているというご意見だったかと思います。皆さんからご意見をいただきましたが、整理をさせていただきたいと思います。その前のご発言がありますようでしたらお願いします。

志自岐委員：１４ページの基本的な考え方と、１５ページの活力とは、進化とはというような言葉の定義が、少しごちゃごちゃしている感じがして分かりづらい気がします。このあたりの文章は今後変わる可能性があるのでしょうか。

田中副会長：今のご指摘は、15ページの図の下の説明書きのことでしょうか。

志自岐委員：14ページの部分です。

田中副会長：こちらについては、前段から一つずつ確認をしたいと思っています。

村上委員：協創か協創力かというのはなかなか難しいと思うのですが、案1と案2でいうと、2に収斂していると思います。私も案1だとまちづくりとか都市開発やハードの印象が強いので案2でよいと思います。

また、今まで出てきていないところで、活力と進化については見出しで定義があるのですが、協創については見出しがありません。新しい言葉なので見出しを付けてもよいのではないかと思います。14ページの真ん中より少し下に、私たちはこの仕組みを協創と呼びます、の下あたりに、例えば協創とはという見出しを付けるなどといったことはあり得ると思います。

益留委員：協創力という言葉は、初めて聞いたら何だという言葉だと思うのですが、一つの文章としてのまとまりや明確化というのは必要だと思います。例えば協創力や協創の言葉の意味については、分からないとか何だろうと思う部分も必要かなと思っています。なぜかという、何だろうと疑問を持つと、その言葉がどのような意味で使われているのだろうと、興味が出てきたり、この言葉について足立区はどのように出しているのだろうということを知りたいなと思ってくるためです。そこから深い内容まで知ってもらうチャンスになるかと思いました。

その上で、知りたいと思って調べた先に、明確で納得できる答えが用意してあることが大事だと思っています。今ご意見にもあったように、協創についての説明書きが活力と進化と同じようにしっかりと分けて書いてあることが理解につながると思います。

定野委員：人づくりを教育委員会でやっているのです、ぜひとも「ひと」を入れていただきたいと思います。半角でなく全角でもよろしいのではないのでしょうか。また、協創力については、協創も協創力も造語なので、前回は協働でつくとやりましたから、協働から協創へという流れだと、協創でつくるでもかまわないと思います。

田中副会長：およそいずれかの意見で共有、共感されたかと思います。それでは皆さんの意見を聞いた中で、私なりの受け止め方をご提案したいと思います。まず協創という字そのものについては、原案の協力の協で行こうということでご異論はないかと思います。

その上で、将来像については、案１と案２がありますが、案２のひと・まちのように、「ひと」が入ることによってより広がる、あるいは区民そのものの役割や活力がまたそこにイメージできるということで、案２にさせていただくというのがおよその合意かなと思いました。

協創力をきちんと定義をする、説明をすることが必要だし、それについてはまたこの後も区民に向かってきちんと周知を図っていくことが大事であり、協創、もしくは協創力という言葉についての説明をきっちりした上で、将来像の後に入れてはどうだろうかというご提案がありましたが、私もそう思います。つまり、活力とは、進化とは、というキーワードは入っておりますが、協創力とは、というのがありませんので、きちんと説明をするということかと思えます。

さて、案２で進めるとして、このあたりはバリエーションがありまして、例えば協創力とつくるというのは重複する、あるいは、主語をもうちょっと明確に生み出すような書きぶりができないか、あるいは、微調整ということで、進化し続けるひとの前に半角、もしくは全角のスペースを空ける、あるいは、協創力でつくるを真ん中に持ってくるといった提案が出されました。

それで、私の提案は、半角、あるいは全角を空けるというのは、していただいた方がよろしいかと思います。ただ、表現についてこの時点で変えるとなると、これまたきちんと議論を最初からし直さなければいけません。そのため、いくつかのご意見、ご異論があるかとは思いますが、ここは全体的に多くの皆さんのご意見がこの案２というところに集約されておりますので、そこでご賛同をいただければそのような形に取りまとめたいと思います。

最後に、協創力か協創かということは、最後まで残りました。両方の意味合いがたしかにフィフティフィフティでありそうように思います。これについては、本日欠席の会長もおりますので、会長にご相談をさせていただいて、最終的には会長・副会長一任ということで引き取らせていただきたいと思います。２月２５日が最終的な区長への答申ですので、もっと早い段階で結論を出し、このような形で整理をしたということを事務局から皆様にお知らせしたいと思えます。そのような形で本日のところは、会長・副会長一任でお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

乾委員：１４ページの協創のところには、二重括弧が入っているのですが、将



来像のテーマのところでは二重括弧で協創としたら、つくるがかぶらないと思います。

田中副会長：そのこともご意見として受け止めさせていただきます。

それでは将来像に関するご議論、それから協創、あるいは協創力というところのご議論は、会長・副会長で整理しますので、ひとまずこの議論はここまでとさせていただきます。熱心なご議論ありがとうございました。

それでは最初から確認をしてまいりたいと思いますので、説明をいただいた後委員からご意見をいただいて、議論の全体を行っていきたいと思います。では事務局、お願いします。

基本構想担当課長：それでは時間の関係もありますので、修正部分をかいつまんでご説明します。資料２１の表紙について、資料２２では１ページのナンバー１になります。タイトル、サブタイトルを付けた方がよいということで、そのようにさせていただきましたが、サブタイトルは結果に基づいて変更させていただく可能性がございます。

資料２１の１ページで資料２２の２について、基本構想答申の作成方針に加えさせていただきました。答申の構成や誰が誰に向けたものか分かりにくいため、答申の趣旨を説明した方がよいということで対応させていただきました。第１章から第３章までは、区の立場で区がそのまま基本構想の方に検討できるように、あえて区の立場で書いてございます。そして旧では第４章でしたが、本日は、「おわりに」としており、最終の部分は審議会から行政に求めるものという立場で書いております。

次に資料２１の３ページの第１章で、これまでの取組みの成果と現状についてでございます。こちらにつきましては、資料２２の５、全体的にこれまでの振り返りが成果だけですので、課題などが見えてきているものも記載すべきであり、また区内の情勢変化が書き足りないというご意見がありました。およそ３ページから８ページまで、つまり第１章の１番（２）と１番（３）の部分で課題等についても数か所記載しました。

続いて資料２１の５ページをご覧ください。（３）重点プロジェクトに基づく取組みとボトルネック的課題解決の必要性についてです。資料２２の７は後の章でボトルネック的課題というものが出てきているということで説明を加えました。

続いて資料２１の１１ページをご覧ください。資料２２では２ページ目の２１です。交通利便性ということでは多くの方からご意見をいただきましたのでご紹介します。交通利便性が向上しているとか、良いといったニュアンスが多

かったところですが、そこまではいっていないというご意見が多々ありましたので、11ページでさらなる交通利便性の向上や、他の部分も含めて交通利便性はさらに向上が必要であるなどといった表現をところどころに記載しております。

次に、資料22の23番で少子化への対策も課題として入れることについて多くの方からいただきましたので、第2章もそうですが、少子化や少子などといった関連の言葉を多く入れております。

あとは項目名に関してです。資料22の26番で、第2章で将来に向けた課題とあったのですが、実際のところ解決の方向性も記載されているというところで、項目名を将来に向けた課題と解決の方向性に変えさせていただきました。

続いて資料22の39番で、「協創」の考えを打ち出したのは審議会の成果だが、「創る」の表現が薄いといった部分是对应させていただいております。

続いて41番で、協働を否定して協創に入ると誤解される表現は良くないというご意見がございました。こちらは考え方の部分になりますが、今後も協働は継続していきます。さらに、協働も含めてさらに協創も加えて実施していくという表現にさせていただいております。そういった関係で、タイトルも若干変えさせていただいております。

42番も先ほどご意見がございました。区民主体などは大事だが、行政がコーディネーター役だけだと役割が薄れるということで、これまでの役割を担った上で、継続してまいりますので、そのように明記させていただきました。

46番は先ほど議論をいただきありがとうございます。

続いて大きなところで47番ですが、こちらは図をご覧いただいた方がよろしいかと思います。資料21の17ページをご覧ください。将来像の図について、前回は雲があつたり、矢印が後ろに回っていたり、ない方がすっきりするなどといったご意見がありました。一方で、もう少し工夫すればよいなどといった具体的なお意見もいただきました。その後事務局でも検討し、やはり根幹の部分ですので、図を丁寧にした上で加えさせていただきたいということで、上の将来像部分については、下の多様性・つながりよりも強調しすぎない程度にとどめております。また、協創力の文字は上の方がよいというご意見もありましたが、ベースとなる部分から出て、その上の活力・進化というスパイラルや、相乗効果の源になりますので、この位置に配置させていただいております。

続いて48番は全体に関わる部分ですが、特に第3章ということで記載しております。各専門部会の意見が十分反映されていない。例えば子育てを地域で支えることから高齢者まで世代別の記述などというご意見をいただきました。これにつきましては、専門部会検討シートなども踏まえ、第2章、第3章、それから、「おわりに」のところで全体的に文章を修正させていただきました。特

に第3章はさまざまな意見等を集約しながらも方向性を分かりやすく整理する必要が出てきたため、これまで文章を長く書いておりましたが、箇条書きにまとめ直したところです。

50番では前回ひと・くらし・まちなどの三角図があったことについて、こちらは本文の中で示している位置付けで十分と考え、削除させていただきました。

続いて51番で、子ども専門部会での内容が「ひと」になったことに違和感があるというご意見がございました。子どもの内容も活かしつつ、年齢にかかわらずひとづくり全体として整理させていただいております。

52番のご意見については、視点の表記が「ひと」で、タイトルや文中では「人」と表記されているのはなぜかという点について、基本的には個人を意味する「人」を用いますが、平仮名としたのは、ひと分野と捉えた視点に限ってのみ使用させていただきました。同様にくらし分野についても、暮らすは漢字で、くらしの分野では平仮名とさせていただきました。

続いて「おわりに」の部分で61番について、結論のまとめ部分として、章とせずアクセントを変えてはどうかとか、「おわりに 基本構想の実現に向けて」としてはどうかとのことでしたが、章のタイトルを第4章ではなく、「おわりに 基本構想の実現のために」とさせていただきました。「向けて」というところですと、第3章とかぶることも意識しまして、「ために」とさせていただきました。

さらに先ほど申し上げた、はじめにの部分で構成の位置付けを説明いたしました。つまり、審議会の立場で「区政に対して以下を求めます」という立場で記述してございます。こちらは62番です。

次に70番と71番について、前回はございませんでしたが、基本計画の着実な推進の項目を事務局から追加させていただきました。このようになりましたのは、71番で、全体的に漠然としていて、具体的な対策の記述がないということを受けてのものです。その結果として将来像を示す基本構想では、必要となるさまざまな対策を限定せず網羅的に表すため、ある程度収斂した方向で整理せざるを得ません。そういったところで、区が基本計画で個別具体的な事業の構築や実施に取り組んでいく際に、皆様からいただいた審議会の中での意見等非常に貴重なものですので、この答申の資料として添付させていただき、基本計画を作成する際は、こちらを反映させていくということで、先ほどの基本計画の着実な推進という項目を追加させていただいています。

田中副会長：答申全体をご説明いただきました。主に修正の箇所をご説明いただきましたが、修正されていなかったところでも、改めて今日お諮りをして固められるところは固めていきたいと思っております。

少し分けて議論をしたいと思います。まず表紙です。それから表紙をめくりますと、答申とあると思います。私の意識では、答申という1枚紙が冊子の上に来るイメージでしょうか。

基本構想担当課長：はい、そうです。

田中副会長：答申とあるのが1枚紙で、全体の冊子の上に来るというイメージです。それから、答申の右側に、基本構想答申にあたってという会長にいただく文章ということで、皆さんに熱心にご議論をいただいたところであるとか、あるいはこの区民の思いをきちんと区として反映してほしいといった趣旨のことをまとめていただいているかと思います。その上で目次構成、そして、はじめに、ということで1ページ、2ページまで、まずはここまでのところでご意見等ありましたらお願いします。

もしお気付きの点があれば、後で最後に戻ってきます。全体の構成と、それから、「はじめに」が整理されたということでございます。

それでは第1章。本文の3ページからです。11ページまでございます。第1章、これまでの取組みの成果と現状ということで、これまでどのような成果を挙げてきたのか、どのような到達点にきたのかといった内容を、項目に分けてこれまでの基本構想の振り返り、それから足立区を取り巻く社会情勢の変化等々、現時点の足立区の取組み状況を整理したものですがいかがでしょうか。

長谷川委員：第1章は非常によくまとまってきたなという印象を受けております。会議の最初の頃に、ぜひ今までの取組みを振り返るPDCAをきちんと回して書き込む必要があるのではないかと申し上げておりましたが、そのようになってきたなという感触があります。

ただし、第1章の1で、これまでの基本構想の振り返りという言葉があります。ここでは振り返りという言葉よりも、PDCAなどで使われている評価や対応など、きちんとした言葉を使っていただく方が分かりやすいと思いました。

それから、9ページの2にグラフで後期高齢者数の将来推計とありますが、タイトルのところにも人口減少と少子・超高齢社会とありますし、それから余白がありますので、会の前半でもいろいろ議論がありましたが、人口減少についてもグラフを載せていただき、少子化についてもグラフに載せていただきたいと思います。余白もありますし、そのようにしていただく方が、全区民に向けた資料として非常によくなると思います。

田中副会長：2点ご指摘をいただきました。第1章の1番の見出しを工夫でき

ないのか、振り返りという言葉が工夫ができないか、それから特に少子化の状況、人口減少というのは区にとって重要課題なので、本文にグラフで収められるとよいというご指摘かと思います。他にいかがでしょうか。

須藤委員：グラフに取り入れていただきたいのは、生産年齢人口の減少です。そのグラフもあった方がよいと思います。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

この時期に申し上げるのもやや申し訳ないのですが、5ページにボトルネック的課題というのがありますが、このボトルネック的課題というのは足立区の行政で使われている言葉なのでしょうか。意味合いをはっきりさせておいた方がよいと思うのですが。

基本構想担当課長：足立区では、以前から重点プロジェクトがありますが、それに関連してずっと使っております。直接的な意味合いは、瓶の首のところですので、そこがつかえて物事が進まないというようなことから想像していただければと思います。

田中副会長：おそらくボトルネックというのは、ある物事の流れが詰まるという、瓶の首が細くなっているので流れが詰まることだと思います。交通渋滞などにボトルネック渋滞などというのがあるのですが、このように順調に進む課題、あるいは前進の仕方があるところで急に詰まってしまう、あるいは障害になる、障害が生じてくることをボトルネック、あるいはボトルネック課題というのだと思います。特段違和感がなければ区で使っているのでもよろしいかと思います。他にいかがでしょうか。

鈴木けんいち委員：1ページの下から5行目のところで2.7倍という数字があり、これは資料22では決算総額で2倍であると修正がありますが、2.7倍ではなく、2倍が正確なのではないでしょうか。

田中副会長：441億円から1,209億円へということを受けて2.7倍としていますが、2倍ではないかというご指摘かと思います。いかがですか。

基本構想担当課長：資料22の説明が分かりにくくて申し訳ありませんでした。資料22の3番は、事務局から数字を差し替えさせていただいた説明です。民生費が2.7倍になったというのは事実です。修正内容のところに参考という

ことで、民生費は約2.7倍ですが、決算総額は実は2.0倍です。ところが、民生費がさらに伸びています。そういった補足が分かりづらくて申し訳ありませんでした。数字に誤りはございません。

鈴木けんいち委員：何の決算ですか。

基本構想担当課長：足立区の一般会計決算の総額です。

田中副会長：今のご説明は、資料22の3の修正内容の括弧内の説明の仕方が少し分かりにくいので、きちんと分かりやすく直しておいてください。本文そのものは民生費のことを指しているもので、支出が449から1,209億円と変わったということで、2.7倍ということでございます。他にいかがでしょうか。

先ほど1章の中でいくつか表現のことと、図表の追加などありましたので、できるだけ反映していただきたいと思います。

3ページのところで振り返りというのが、例えばということで評価と対応としてはどうかという意見がありました。内容をもう一度見て整理をしたいと思います。振り返りがよいのか、評価と対応がよいのか、内容を見ますと成果とかどこまでできたのか。あるいは何が残っているのかということといった課題があるようですので、これまでの基本構想の評価と課題があるかもしれません。事務局と調整したいと思います。

それから、グラフの挿入につきましても、場合によっては本文に置いた方がよいのか、あるいは参考資料に置かせていただくのがよいのか、事務局と調整したいと思います。

それでは2章です。12ページからで、先ほどもご議論があった14ページ、15ページの将来像、さらには17ページの将来像の概念図まででございます。いかがでしょうか。

石橋委員：17ページの図ですが、この図はいろいろ整理をしていただいて分かりやすくなりましたし、視覚的に見たときに重要だと思います。一つ気になるのは、スパイラルが左回りであることです。スパイラルが一般的にどうなのかネットで調べてみたら、圧倒的に上に行く場合は右回りのスパイラルが多くなっています。図を見て違和感があると思ったら、そういうことだったのかなと思います。ご検討ください。

田中副会長：何か意図があるかもしれないので、後で事務局にお答えいただき

たいと思います。他にいかがでしょうか。

志自岐委員：14ページの基本的な考え方の二つ目のパラグラフの下から3行目で、将来像を設定する基本的な考え方の中の文章がありますが、協創とはというのは大きな見出しで入れてほしいという意見がありました。その中でいくつか非常に気になるところがあります。一つは第2番目のパラグラフの下から3行目で地域の担い手が不足してきていますという表現について、不足してきているから、もっと多様な人々を取り入れた協創のようなものが必要になるということなののでしょうか。不足してきているのか、単にバラバラにやっているからそれが力として結集しないので協創のような考え方が必要になってきているのかというあたりが単に不足してきていますと言い切ってしまうのはいかがなものかなと思います。

それから、その次のパラグラフの中に重要なところがあり、協創の概念的なものを人々に説明するときにキーワードになると思います。4行目で、つながり支え合うことでより一層力を発揮できる新たな仕組みが必要です。私たちはこの仕組みを「協創」と呼びますと書いてあります。その下に、協創とは、というところになると、最後で課題を解決していくために根本となる考え方ですとなっているのですが、考え方と仕組みは違うので、ここはきちんと言葉を精査して使っていただかないといけないと思います。先ほど、協創力なのか、協創なのかということで議論がありましたが、協創というのはつながり合うという形だけだと思うのですが、それが具体的に解決していく力になることが必要なのだとということで、ここで最後に協創力という言葉が出てくるとと思います。つながり合うだけではなくて、それが具体的な解決の力になるということであれば、協創力ということをもうちょっと明確な形で書いていただいたらよいと思います。

それと次のページの、「活力とは」と「進化とは」のところの文章ですが、ここに協創的な意味合いが含まれているので、活力とはのところですが、後段になると互いに認めあい、いきいきと活動することというようなことって、互いに協力、認めあいながらというのは、協創的な概念が含まれています。活力とはという言葉の説明の中に、活力という言葉がたくさん入ってくるとかえって分かりづらくなるので、だったら活力という言葉を使わないで説明をしていただきたいと思います。このあたりの文章の切り分けがぐちゃぐちゃで、新しい言葉が出てきて分かりづらいので、明確に分かりやすく書く工夫が必要だと思います。

田中副会長：14ページから15ページにかけて、表現の問題は大変重要なご

指摘かなと思います。一つは地域社会の担い手が不足してきているという表現でよいのか、あるいは、協創というのは仕組みなのか考え方なのかという点もきちんと精査をしてほしいということです。それから、協創力が課題を解決する力につながっていくことの意味合いをきちんとイメージさせるように表記をしていただきたいということと、それから、15ページの方では活力、あるいは進化という言葉の説明が、活力を使って活力を説明している、進化を使って進化を説明していることから、できるだけ活力・進化を使わない説明をつくってほしい。それから、協創的なイメージはコンペティティブという、お互いが競い合うというイメージがあるということでしょうか。協創というのは、共に創る力ではないのですか。

志自岐委員：例えば互いに認めあいながらいきいきと活動することでまちに活力があふれていきます。そこにはものや自然が集積し、つながり、新しい動きが巻き起こりますと、いわゆる協創の概念ではないかと思います。協創の概念において活力とはといった際、活力そのものをどのように説明していくのかという点について、協創の概念が入ってくると、少し分かりづらくなるのかなと思います。書くのであれば、活力をつくるためには協創の概念が必要なのだというようにきちんと書き分けていただきたいということです。

田中副会長：私はそのように思わなかったのですが、14ページの協創という概念と、今委員がご指摘になったお互いに認めながら、あるいはいきいきと活動すること、まちに活力があふれるというのは協創とはそれほど重複していないという印象を持ちました。あえて協創という言葉が使われたので、コンペティティブのことかなと思った次第です。ご指摘の点、もう一度整理をしてみたいと思います。他にいかがでしょうか。

北川委員：13ページの図ですが、例えば重点プロジェクトによる成果で、典拠が5ページとあるのですが、2番目に書いてある区内の大学による大学連携は8ページに書いてあるので、正確に引用するか、もしくは書かないようにした方がよいと思いました。また、基本構想答申の作成方針について後でお伺いしたいことがあり、少しお時間をいただきたいのでよろしくお願いします。

田中副会長：区内5大学による大学連携というキーワードでしょうか。

北川委員：これは例であって、典拠が5ページなどというのが表の囲みに書いてあるところと書いていないところがありますが、ボトルネック的課題は5ペ



ージから 8 ページなどでしたら分かると思います。重点プロジェクトなどによる成果などは全体でどこから引いてきているかということを書きたいので、そこで典拠で戻るとどこになるかが書いてあると思います。そこを書く必要があるならば正確に書けばよいし、そこまで細かく書かなくてもよいのであれば、書かなくてもよいのかなと思いました。

田中副会長：今のご指摘の点は、むしろ 13 ページの図の中の上の二つの四角の、(p. 5) というのが分かりにくいということですね。

北川委員：分かりにくいというよりは、どこから引いてきているかをここで正確に示す必要があるのであれば、5 ページから 8 ページと書けばよいし、そこまではする必要がないなら何も書かなくてもよいのではないのでしょうか。足立区が迎えるチャンスのところでも 11 ページと書いてあります。

田中副会長：引用を正確に書いた方がよいというご指摘かと思います。

北川委員：書いた方がよいなら書けばいいし、そこまでこだわらないのであれば何も書かなくてもよいのではないのでしょうか。

田中副会長：書いてあると分かりにくいので、きちんと正確に書いた方がよいというご意見ということです。他にいかがでしょうか。いくつか修正があったかと思います。14 ページ、15 ページの表現の仕方と、13 ページの図の書きぶりについてご指摘がありました。引用の仕方、それから 13 ページのらせんについては左らせんにしている意味があるのでしょうか。

基本構想担当課長：特定の意図があったわけではございませんので、調べて直す必要があれば直す可能性がございます。

田中副会長：さて、それでは第 3 章と最後の「おわりに」まで含めたいと思います。18 ページから 22 ページまでの整理についてご意見をいただきたいと思います。

志自岐委員：第 3 章の四つというのは、活力と進化に向けて何をやっていくべきかについて書いてあるかと思います。協創というのは、活力・進化をつくるための手法なりベースであるという考え方でよろしいのでしょうか。

田中副会長：私の理解で申し上げますと、将来像は17ページの図にもありますが、協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続けるひと・まち 足立という状態が実現されることが将来像です。そのため、活力にあふれる、あるいは協創力でつくられている状態を将来像としたときに、将来像の状態に向かって四つの取組みがあります。それが第3章の視点1から視点4までです。この内容が整理されたものと理解しております。他にいかがでしょうか。

「おわりに」の書き方も、前回第4章が少し分かりにくいというご指摘もあり、あるいはその位置付けがどうかというご意見があったかと思います。21ページからの整理ですと、「おわりに」では基本構想、その内容を実現するために例えば人材育成であるとか、協創体制などいくつかの課題を区に求めているということ整理をしているという内容に収まっています。

石橋委員：第3章の書き方なのですが、視点が四つ出ています。それぞれに説明があるのですが、第3章の意味合いというのは、将来像を実現するために四つの観点からどのように取組むべきかという基本的方向を整理したものであるという言い方です。この前のパラグラフでは、どうあるべきかという基本的方向を示すものです。どちらにしても似ていると思いますが、そのような視点をここに掲げたということだと思います。中を見ると、〇〇していきますという、表現としては区がこのような方向でやっていきますという決意表明ですね。ほとんどそのような表現であるため、どのようにあるべきかということここにまとめますと書いている割には、いきなり区はこうにしていく所存ですというような書き方がされており、少し変だなと思いました。もう一度よく読み直すと、この意味合いというのは、各視点について黒丸でタイトルが付いており、これがいわばどうあるべきか、どのように取組むべきかということの具体的な回答であり、それを実現するためにさらに区はどのような取組みをし、このような方向に進んでいますという決意表明がされているという文脈ではないかと理解しました。誰も知らない人が読んだ場合に、表に出ているタイトルがあまり印象に残らずに、いきなりこうしていきますというのが出てくる形ではないのだろうかと感じました。

田中副会長：位置付けについてですね。志自岐委員のご発言とも少し重なるかもしれませんが。事務局に確認をしたいのですが、第3章の位置付け、四つの視点、基本的方向性と視点というのが、どうも区のある種の取組むべき方向というところに集約されているように思うというご指摘がありました。つまり、区の方針、区の行政の取組む方向性に集約されているがそのような考え方でよいのかということかと思います。第3章、第2章の将来像については、区民に

もPRをしますし、あるいは事業者の皆さんからも協力を得ていくということとなり、区としてはオール足立区で実現していくという体制となります。第3章は区の役割に焦点が当たっているように感じられますが、それでよいのかというご趣旨の発言だと理解しました。事務局からはいかがでしょう。

基本構想担当課長：区がやっていくべきこととして書いております。例えば18ページの「ひと」のところは、地域や学校などと連携だとか、人が地域に還元していただくということが必要になってくる、また、「くらし」では、環境問題について個々の方々に取り組んでいただくなどといったこともありますので、そのような仕掛けをしていきます。協創の部分がそこで出てくるということを考えています。

田中副会長：よろしいでしょうか。一応私なりの整理と考え方と、事務局の説明で補足をしていただきました。

志自岐委員：こちらは答申なのでしょうか。区民が区に対して出す答申であれば、例えばその前の基本的な考え方などの場合、なりますとか、このようなことが必要ですという書きぶりになっていますが、第3章のところは求めますとなっています。私たちが区や区長に対してこのようなことを求めますという主語がはっきりしているのですが、第4章のところは答申の中で誰が誰に求めているのでしょうか。あるいは自分でやっていくということなのかが少し不明確であるような気がします。

田中副会長：ただいまのご指摘は第3章のところですね。もう一度この場で確認ですが、答申そのものは、私たちが区長から諮問を受けて、区長に出すこととなります。従って区はこの基本構想・基本計画を、区政の一番大きな柱として、あるいは区政のこれから取り組むべき方向性として定め、基本計画として整理していくこととなります。ですから、主題は区のあり方、区の行政のあり方についての内容が個々に盛り込まれていることとなります。

それで、第2章のこの足立区が目指す将来像というのは、足立区はこれからこのような将来像を目指していく、このように将来像に向かって掲げていくといったことが大事ではないかという趣旨で、第2章で足立区が目指す将来像というものを定義したかと思います。こちらは皆さんのご議論を踏まえてこのような形でやりますということを示し、第3章ではそうした将来像の実現に向かって、特に重要な四つの視点を入れています。従って、ここには特に重点的に取り組む方向性、課題がここに盛り込まれているように理解しております。その

ような前提の下で今のご発言を文脈として理解していただければありがたいと思います。他にいかがでしょうか。

おぐら委員：第2章で足立区が目指す姿、将来像ということで、さまざまな課題とまちのこれからの発展に向けての施策が盛り込まれています。では、具体的に第3章の中でどのように実現していくかということへの方向性・視点を読み取っていくと、例えば一例を挙げますと、貧困の連鎖をどのように解消していくかということでの課題が書かれていますが、では第3章の中に、どのようにして貧困の連鎖を解消していくのかという方向性が具体的な文章で見えてきません。「ひと」と「くらし」の文章を読み込んでいくと、その点があやふやだと思います。他の部分のいろいろな課題についてもそうなのですが、細かいところについてはもちろん基本計画の中で具体的な政策として落とし込んでいくことになると思います。第2章の中で触れられた足立区の課題を、ではどのような方法で解消していくのかという点の具体性が見えないのですが、このあたりについて、回答をお願いします。

田中副会長：私なりに理解をすれば、第3章は基本的な枠組みであると思います。これを具体的に埋めていくものが第1章で整理をした課題であったり、残された課題であったり、これから特に重点的に取り組むべき社会状況が出てくることになります。当然ながらプログラムをつくるときは、第1章も含めて整理をしていくことになると思います。これは私の考え方でございますが、事務局がどのように考えているかを説明していただけますか。

基本構想担当課長：田中副会長がおっしゃった通りです。貧困の部分については、これも重要な問題ですが、区政として全体的なこともございますので、例えば人のところでは自分の道を歩んでいける力を身に付けるとか、夢や希望に挑戦できるといったことも専門部会でございました。くらしのところにも関わってくる部分がございます。非常に網羅的な表現になっていますが、いろいろな施策や課題なども含めてこのように整理させていただいております。あとは個別の計画などで実施していくための大元になるものを用意させていただきました。

ぬかが委員：第3章、第4章と全体にかかる件もあるので、どこで発言しようかと思っていました。今何人かからもお話が出たように、第3章というのはそれぞれの分科会で基本的方向について議論をした上で、どのように進めるかという視点が四つに整理されていますが、分科会と同じ視点ですね。すると、そ

の分科会での議論が本当に集大成されていないような気がします。分科会も全部出席した中で、分科会での議論も踏まえて、集大成されていないのではないかと考えています。特に視点1の「ひと」のところなのですが、このスローガンはよいと思います。多様性を認めあい、夢や希望に挑戦する人はたしかに箇条書きにしていますが、多様性の表現の部分が、「おわりに」に移ってしまっています。すると、視点1のスローガンの多様性を認めあいとなると、基本的な方向性の中にはないということになってしまいます。それから、今お答えがありました。区が課題として進めている子どもの貧困対策は、元年だと区長が言って取組んでいこうということで、中心点なのではないかと考えています。一方で、よいことなのですが、温暖化とか災害とかそういう文字があるのに、この子どもの貧困対策という表現がないというあたりはどうなのかなという思いがあります。

それから、くらしのところですが、文章そのものはよいのだけれども、くらしといったときに多くの区民の方々は、自分たちのくらしはどうなのだろうと思います。第2章の議論から考えると、活力と進化のために一緒につくり出していく、つながっていくという側面はよいのですが、それが答申であるとすれば、行政もみんなでというところを含めて、くらしを支えるという部分の視点が自治体には必要なのですが、その視点が不在ではないかと考えています。

その点で、他にもいくつかあるのですが、前回も議論された交通の部分で、まだまだこれからも課題があるという話があったのですが、前回から今回でコミュニティバスの路線は増設というのが消えて、見直しとなっています。増設が必要な路線がまだ計画でもあったということで、いくつか細かいところ、大きいところも含めて、これで結んで答申をすることになると、私個人として責任を持って答申ができないとも考えています。私の意見ということで申し上げておきたいと思います。

田中副会長：委員から具体的なお話をいただきました。まず、視点1のところ、もう少し多様性というキーワードに付随した考え方や、子どもの貧困対策につながるようなキーワード、あるいは方向性の頭出しをきちんと盛り込む必要があるのではないかとことです。また、「くらし」ではくらしそのものを改善していく、向上していくという方向性も表現の中にきちんと整理をすべきではないかということでした。あるいは、交通の話もいただきました。今いただいた点は、表現として調整をさせていただきたいと思います。私と事務局で1回預かりたいと思いますがよろしいでしょうか。事務局はそれでよろしいですか。それでは、今の具体的な点についてはそのように整理したいと思います。他にいかがでしょうか。

北川委員：各章の具体的な話が出ました。先ほど私が基本構想答申の作成方針のところの後で質問させていただきたいといったところにつながるのですが、第1章から第3章は区の立場で作成し、「おわりに」は審議会の立場で作成するとあるのですが、審議会が全体を作成しているものなので、ここで修正内容のナンバー2でおっしゃっている区の立場というのは、どういうことを指しているかが分かりません。追加でご説明いただけますか。これは全部審議会の立場で書くものだと私は理解しているのですが。

田中副会長：私もそのように思います。事務局に確認します。

志自岐委員：少し細かいところですが、「ひと」の2番目のパラグラフの下で地域や学校などでとありますが、協創というからには、地域と学校だけでは足りないと思います。また、「くらし」のところですが、地域の交流を促し、趣味や価値観を同じくする人同士となっていますが、分科会のところから祭りというのが大きなキーワードで出てきているので、可能であればそれを入れていただきたいと思います。また、「まち」では、今までのインフラなどを再評価し、まちづくりの基本計画的な都市計画のようなものも見直し、時代に合わせていくといった言葉もちょっと入れていただきたいと思います。また、「おわりに」というところは羅列で書いてあるのですが、未来に向けた協創体制の構築が前提にあって、次々といろいろな将来像が実現できると思うので、これがすべてのことのベースになるといったことが分かるような形で書いていただけたらと思います。

田中副会長：まず北川委員からのご質問があったと思います。これは意見項目の2番についての考え方を改めてもう一度説明してほしいということです。第1章、第3章と、「おわりに」の考え方ですね。事務局に伺います。それから、志自岐委員から18ページ以降でキーワードをきちんと盛り込んでほしいということで、具体的にご提案をいただきました。これは事務局と整理をしたいと思います。

基本構想担当課長：立場に関してですが、立場といっても考え方ということで審議会の皆様方の考え方を基にしましたが、これは基本構想を策定する上での諮問、そして答申ですので、区がこのように書きなさいというような言い回しや表現で書いたそれが区の立場ということでご理解いただきたいと思います。

北川委員：もう時間がないので、議論する時間がないと思いますが、審議会の答申なので、審議会の立場なのではないかというのと、あとは文章自体が第1章から第3章までを足立区が作成する基本構想案となるようにと書いてあるのですが、この表現が分かりにくいと思います。そのような趣旨であれば補足していただきたいです。私がどうかという意見は全体には影響しませんが、答申であれば審議会の立場なのではないですかというのが私の意見です。

田中副会長：委員の意見に賛成です。事務局の考え方、修正案の整理の仕方に少し違和感もありますが、ほぼ同意だと思いますのでよろしいかと思います。

ありがとうございました。特に第3章のところは、具体的な施策の方向性を示すということで、表現のこと、あるいはキーワードの強化、見直しについてご意見をいただきました。できるだけ委員の意見を反映させていただくようにしたいと思います。この後は事務局と私の方で預からせていただいて調整したいと思います。

最後に、資料編はご説明がありませんでしたが、23ページ以降は資料編ということで整理しています。委員の名簿があり、これまでの審議の経過があり、条例、基本構想の条例、あるいは要綱等があり、各部会での貴重なご意見のまとめが収録されるものでございます。特に委員には、それぞれ部会のまとめもそうですが、24、25ページの委員名簿について、このような形でよろしいかどうかを、肩書き等含めてご確認をいただきたいと思います。

ここまで全体にわたって見てまいりました。ここで大体集約ができたかと思いますが、もし最後に何か委員から特段ご意見がありましたらお出してください。いかがでしょうか。それではよろしいでしょうか。

いくつかペンディングがあります。特に将来像の表現ぶり等については、最終的には会長、副会長で調整をさせていただき、事務局と整理をしてできるだけ早く皆様にフィードバックをさせていただきます。ここまで議論をさせていただきましたので、この後は事務局にお戻ししますので補足があればお願いします。

基本構想担当課長：先ほど副会長がおっしゃった通り、調整して早めにお示しできるようにしたいと思います。

田中副会長：それでは次回が2月の下旬に予定されておりますが、区長への答申ということで、概ね完成形でお話をしたいと思います。従いまして、この後約3週間のうちにできるだけのところは調整をさせていただきたいと思います。また会長のご意見もございますので、会長ともお諮りをしていきたいと思いま

す。一任をいただきたいところもありますが、その点については重々ご確認をお願いしたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは予定の時間を延びてしまいましたが、これにて第6回足立区基本構想審議会を終了させていただきます。本日もどうもありがとうございました。

## 2 事務連絡

### (1) 次回の予定

基本構想担当課長：事務局から事務連絡をさせていただきます。次回は2月25日の午前10時から11時までです。区長に答申をした後、区長が退室いたしますが、その後皆様と意見交換等を予定しております。場所は本日と同じです。また、本日はマイナンバーの手続き、ありがとうございました。本日お済みでない方は次回お願いしたいと思います。お忘れ物のないようにお気を付けください。なお、お車の方は出口付近の係員に教えていただきたいと思います。ありがとうございました。

午後12時5分 閉会